

第46回福岡市美術展

会期：平成24年3月13日(火)―3月25日(日)
 前期：日本画、書、写真、デザイン 平成23年3月13日(火)―3月18日(日)
 後期：洋画、彫刻、工芸 平成23年3月20日(火)―3月25日(日)
 会場：特別展示室A・B、市民ギャラリーA・B・C・D



▲ポスター-B2



▲ギャラリートークの様子

内容

美術の各分野における市民の創造活動を促進し、その成果の発表と鑑賞の機会を提供することにより、市民の美術活動の振興を図ることを目的に毎年開催している公募展。今回は、洋画等7部門で、1,154人(1,315点)の応募があり、内629人(630点)が入選。このうち、市長賞など入賞作品は61点であった。

展示点数 666点

関連事業

▶入賞・入選者発表

期 日：平成24年3月2日(金)
 場 所：1階ロビー

▶表彰式

期 日：平成24年3月18日(日)
 会 場：講堂
 各 賞：福岡市美術展特別賞1点、福岡市長賞7点、福岡市議会議長賞2点、福岡市教育委員会賞・福岡県美術協会賞・福岡市美術連盟賞・福岡文化連盟賞・福岡市文化芸術振興財団賞各1点、西日本新聞社賞3点、福岡県美術協会奨励賞2点、福岡市美術連盟奨励賞2点、奨励賞39点

▶ギャラリートーク

前 期：平成24年3月18日(日) 午後3時より
 後 期：平成24年3月25日(日) 午後3時より

主催等

主 催：福岡市／福岡市教育委員会／福岡市美術展運営委員会
 後 援：福岡県／(社)福岡県美術協会／福岡文化連盟／(財)福岡市文化芸術振興財団／西日本新聞社／福岡市美術連盟

観覧料

一般・・・400円 高大生・・・300円 中学生以下無料
 ※障がい者手帳所持者は無料

開催日数 12日

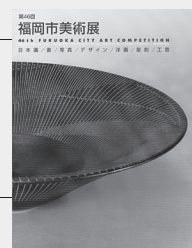
観覧者数 5,814人

印刷物

ポスター：B2 2種
 開催要項：A3二つ折り
 図録：A4変形・46頁

関連記事

p.24を参照



▲図録

出品・入賞・入選状況

部門	出品合計(応募)		展示			
	人員(人)	点数(点)	入賞・入選人員(人)	入賞・入選点数(点)	招待(人)	展示点数(点)
日本画	44	47	30	30	4	34
洋画	261	314	140	140	6	146
彫刻	30	31	16	16	5	21
工芸	78	88	50	50	5	56
書	267	272	160	160	6	166
写真	364	451	179	179	5	184
デザイン	110	112	54	54	5	59
合計	1,154	1,315	629	630	36	666

※招待点数は審査員出品を含む。

常設展

■ 近現代美術

近現代美術室

世界・日本・九州の美術：20世紀から21世紀へ 会期：平成23年5月24日(火)―平成24年5月20日(日)

日本近代の洋画、シュルレアリスム、ポップアートなど、主に20世紀に登場したさまざまな美術動向を代表する国内外の作品60点を、時代別、傾向別にわかりやすく展示した。

1. ラファエル・コランと近代日本の洋画
ラファエル・コラン、黒田清輝、岡田三郎助、吉田博など
2. 20世紀前半の新たな展開
モーリス・ユトリロ、ジョルジュ・ルオー、佐伯祐三、児島善三郎、三岸好太郎など
3. 20世紀後半、不安と絶望からの出発
サルヴァドール・ダリ、マルク・シャガール、ポール・デルヴォー、松本竣介など
4. 20世紀後半の抽象絵画
フランク・ステラ、マーク・ロスコ、菅井汲、田中敦子など
5. 美術の先鋭化と拡張
アンディ・ウォーホル、ジャン＝ミシェル・バスキア、饜嘔など
6. 現代の絵画―希望に向かって
ジグマール・ボルケ、アンドレアス・グルスキー、松尾藤代、やなぎみわなど

日本画工芸室

富田溪仙展

会期：平成23年3月29日(火)―5月15日(日)

博多生まれの富田溪仙(1879-1936)は、17歳頃に画家を志して京都へのぼった。はじめ四条派を学んだが、写生旅行や古画の研究などにより研鑽を積み、南画風の独自の作風に至る。その自由闊達な境地は横山大観に認められ、大正期以降は再興院展を舞台に活躍した。当館の所蔵・寄託作品による本特集では、春の展示が恒例となっている代表作《御室の桜》に加え、その習作を初公開した。11点を展示。

時代で見る美術 III―1920s

会期：平成23年5月24日(火)―7月18日(月・祝)

所蔵品を年代で区切り、ジャンルや国を横断して見ることで、時代と表現について考えるシリーズの3回目。第一次世界大戦後の混乱とともにさまざまな美術運動が開花した1920年代をとりあげた。版画、写真、油絵、日本画など25点を展示した。



ラースロ・モホリ＝ナギ
《ラースロとロシア・モホリ、二重のポートレート》
1923年頃▶

九州の日本画家たち

会期：平成23年7月20日(水)―9月11日(日)

当館所蔵の日本画から、九州ゆかりの作家を特集した。吉村忠夫、小早川清、松尾見華ら福岡県出身の画家、熊本県出身の堅山南風、大分県出身の福田平八郎など個性豊かな画家たちの日本画10点を展示した。

水上泰生と今中素友

会期：平成23年9月13日(火)―11月6日(日)

明治の福岡に生まれた日本画家、水上泰生と今中素友の作品20点を展示した。上京して技を磨き、文展や帝展を中心に活動した二人の画家は、花鳥画を得意とするという共通点を持っていた。



水上泰生《春秋花鳥》(部分)制作年不詳▲

朱貌社5人展

会期：平成23年11月8日(火)―12月27日(火)

終戦直後の福岡で結成された「朱貌社」に集った5人の画家の作品15点を展示した。赤星孝、上田宇三郎、宇治山哲平、久野大正、山田栄二という「朱貌社」の画家たちは、油彩画/日本画という枠を超えて交流し、切磋琢磨した。

コレクションミックス 2

会期：平成24年1月5日(木)―2月12日(日)

古美術と近現代美術の双方を所蔵していることが当館のコレクションの大きな特徴である。普段は1階と2階に分かれて展示される各々の美術を、「明治時代の美術」というテーマの元に19点を選び、同時に展示した。



川辺御橋《源義家卿》明治時代▶

雪月花の時

会期：平成24年2月14日(火)―3月25日(日)

「雪月花時最憶君」という白居易の有名な詩にちなむ本展のタイトルは、四季折々の自然の美を愛してきた私たちにとってなじみ深いものである。本展では、春夏秋冬に見られる風物を描いた作品12点を展示した。

小作品室

シリーズ美術の技法IV 木版

会期：平成23年3月29日(火)―5月15日(日)

特別企画展「ハンブルク浮世絵コレクション」の開催にちなみ、近現代の木版技法を用いた作品を特集展示した。浮世絵版画の技術を受け継ぐ日本の近代版画から新しい展開を見せた第二次大戦後の木版画まで、21点の版画により、幅広い木版表現の可能性を紹介した。



小早川清《浴上がり》制作年不詳▶

浜口陽三展

会期：平成23年5月24日(火)—7月18日(月・祝)

浜口陽三(1909-2000)は、戦後間もない時代に国際舞台で活躍した数少ない日本人版画家の一人である。永遠の世界を希求するようなその作品は、世界を魅了し続けている。本展では、所蔵品の中から浜口の版画作品27点を展示し、静謐で神秘的な作品世界を紹介した。

前衛の時代

会期：平成23年7月20日(水)—9月11日(日)

特別企画展「菊畑茂久馬回顧展 戦後／絵画」関連企画として開催。菊畑茂久馬が若き日々を過ごした1960年代は、日本各地に様々な前衛美術家が多数現れた時代だった。彼が所属した九州派をはじめ、ネオ・タダ、具体美術協会の作家など、菊畑と同時代の作家たちの作品や、活動をとらえた写真あわせて47点で、熱き時代を振り返った。

瑛九展

会期：平成23年9月13日(火)—11月6日(日)

1930年代より幅広い分野で創作を行った前衛美術家・瑛九(1911-1960)。生誕100年を記念し、当館所蔵作品のなかからフォトデッサン、水彩画、版画など、あわせて26点を展示し、光を追い求めた瑛九の活動の一端を紹介した。



瑛九《愛》1950年▶

ソニアとロベール—二人のドローネー

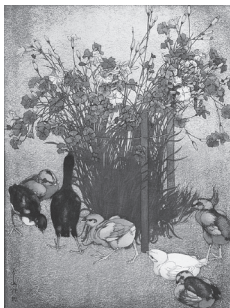
会期：平成23年11月8日(火)—12月27日(火)

ソニア・ドローネー(1885-1979)とロベール・ドローネー(1885-1941)は、主に20世紀前半のフランスで活躍した美術家夫妻である。本展では、所蔵する二人の版画あわせて19点を展示し、刺激し合いながらそれぞれに展開していった二人の芸術世界の一端を紹介した。

吉田博—木版画—

会期：平成24年1月5日(木)—2月12日(日)

吉田博の木版画25点を展示した。大正期から木版画に手を染めた吉田は、徹底した修練によって現在まで圧倒的な人気を誇る作品を生み出すに到った。



吉田博《ひよこ》1929年▶

斎藤清・畦地梅太郎展(西本コレクション)

会期：平成24年2月14日(火)—3月25日(日)

和歌山市在住の収集家、西本宏氏寄贈による作品群の中から、高度な木版技術で知られる斎藤清と、ユーモラスで素朴な作風が特徴の木版画家・畦地梅太郎の作品をあわせて18点展示した。

企画展示室**新収蔵作品展**

会期：平成23年3月29日(火)—5月15日(日)

平成22(2010)年度に福岡市美術館が収蔵した近現代美術作品20点を紹介した。地元福岡と縁のある美術家による絵画やオブジェのほか、現代の絵画や彫刻など、展示作品は多岐にわたった。

山をめぐるイメージ

会期：平成23年5月24日(火)—7月18日(月・祝)

昨年度の「海をめぐるイメージ」に続き、本年は「山」を特集した。山岳風景画の巨匠吉田博や、「阿蘇」とあだ名されるほど阿蘇山を描き続けた田崎広助など山に魅せられた画家は少なくない。山を描いた作品を所蔵品から21点展示した。



吉田博《駒山》1932年▲

前衛の時代

会期：平成23年7月20日(水)—9月11日(日)

詳細は小作品室の欄を参照のこと。

機械とわたし

会期：平成23年9月13日(火)—11月6日(日)

近代以降多くの作家をとらえたテーマである「機械」と「わたし」をキーワードに、絵画、写真、版画などの平面作品からキネティック・アートを含む立体作品まで23点を展示した。

プリンテッド・マター：印刷と美術

会期：平成23年11月8日(火)—12月27日(火)

印刷で作られた作品、印刷物を使った作品などを特集して「印刷」という技法から見た美術のありようを紹介。29点展示。

古美術**古美術企画展示室****江戸の美**

会期：平成23年3月29日(火)—5月15日(日)

特別企画展「ハンブルク浮世絵コレクション展」にあわせて、当館所蔵の江戸時代の絵画、工芸を展示した。浮世絵に大きな影響を与えたといわれる岩佐又兵衛の人物画の傑作、《三十六歌仙図》(福岡市美術館蔵、若宮八幡宮蔵)など17点を展示。

新収蔵作品展

会期：平成23年3月29日(火)—5月15日(日)

平成22年度に福岡市美術館が収蔵した古美術品を、全て公開した。川村コレクション第3次寄贈となるクメール・博伝関係をはじめ、中国の少数民族・苗(ミャオ)族の浮紋織、インド更紗など29件を展示。

青銅製ヘーヴァジュラ曼荼羅型
カンボジア 12世紀頃▶

アジアやきものめぐり

会期：平成23年5月21日(土)―7月10日(日)

総数約1300件におよぶ福岡市美術館所蔵の古陶磁は、アジア各地の作例を網羅している。その中から精選した61件により、当館の陶磁コレクションのエッセンスを紹介。本多コレクションによる東南アジア陶磁、森田コレクションによる中国陶磁を中心に、イスラム陶器、朝鮮・日本(瀬戸、高取、柿右衛門様式等)などで構成。

夏休み子ども美術館2011 子どもギャラリー

「こころのかたち」

会期：平成23年7月12日(火)―9月4日(日)

人は古代から心に抱いた思いを、さまざまな形にあらわしてきた。身近な動物や魚などを形どった器にこめられた願い。目に見えない仏神の像に託された祈り。近現代美術作品1点を含む、美術に表された、さまざまな思いを伝える作品14点を展示。

田中丸コレクション 九州古陶の美(コーナー展示)

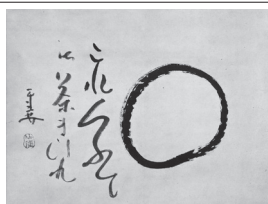
会期：平成23年7月12日(火)―12月27日(火)

福岡玉屋の経営者・田中丸善八氏(1894-1973)によって蒐集された田中丸コレクションは、唐津をはじめ、高取、上野、八代、薩摩、現川といった九州の主要な窯を網羅する近世陶器で構成されている。その中から、代表的な作品15点を陳列し、バラエティ豊かな九州古陶の美の世界を紹介した。

仙厓展

会期：平成23年9月6日(火)―10月30日(日)

博多・聖福寺の禅僧、仙厓(1750-1837)は独特のユーモアあふれる禅画を描いて、多くの人に親しまれた。今回は仙厓の作品の中でも、とくに禅味あふれる名品24点を選び、展示した。



仙厓義梵 円相図 江戸時代▲

明の夢・清の華

会期：平成23年11月1日(火)―12月27日(火)

特別展「北京・故宮博物院展」にあわせて、当館の明・清時代の美術・工芸品を紹介。宮廷画家による洗練された画風を伝える絵画作品から、官窯・民窯の五彩・青花磁器、繊細な技巧が施された堆朱の器など18件を出品。



伝・辺文進 百鳥図 明時代 15-16世紀▶

カンボジアの染織

会期：平成24年2月21日(火)―4月1日(日)

カンボジアでは、アンコールワットなどの遺跡や彫刻が注目されてきたが、近年、絹の絵絛の素晴らしさが徐々に脚光を浴びつつある。当館所蔵のカンボジアの染織の名品と現代の複製作品、染織の道具などの資料に、カンボジアの染織を紹介する図書資料を加え、36点を展示した。

松永記念館室

春の名品展

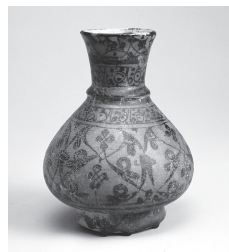
会期：平成23年3月29日(火)―5月15日(日)

松永記念館室前に常時展示中の野々村仁清作《色絵吉野山図茶壺》(重要文化財)にあわせて、春から初夏に相応しい名品を中心に展示。御笠山麓の春景が描かれた鎌倉時代の代表的な垂迹画《春日社寺曼荼羅図》、軽やかな筆致の文様が見所の《黒織部筒茶碗銘「さわらび」》、《志野あやめ絵鉢》など17件。

アジアの工芸

会期：平成23年5月21日(土)―7月10日(日)

松永耳庵は茶人として美術作品の収集を始めたが、後年視野を広げて、少なからぬ点数のアジアの工芸を収集している。茶道具のなかの中国や韓国の作品のほか、中近東の陶器、ガラス器など20点を展示。

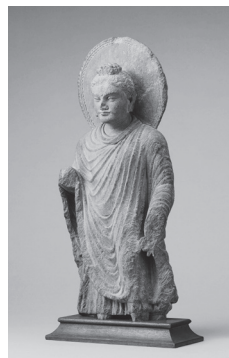


青釉黒絵壺 13世紀▶

仏像の世界

会期：平成23年7月12日(火)―9月4日(日)

信仰の場における仏像の役割は様々である。礼拝の対象として制作されたとみられる木彫・石彫の単独像のほかにも、故人の供養等のため寺院へ奉獻するために造られた石像や埴仏、そして仏塔の空間を荘厳するための浮彫彫刻や銅版押出仏などがある。こうした信仰の場における機能の面から仏像の世界を眺めてみた。17点を展示。



石造仏陀立像 パキスタン 2-3世紀▶

秋の名品展

会期：平成23年9月6日(火)―10月30日(日)

松永耳庵は、尊敬してやまない侘び茶の大家、原三溪の旧蔵品を多く収集した。尾形乾山筆《花籠図》、《柿蒂茶碗 銘「白雨」》など、三溪旧蔵の作品を中心に季節の茶道具を含む15点を展示。

文様の楽しみ

会期：平成23年11月1日(火)―12月27日(火)

工芸品はそのものの形だけでなく、そこに施されたさまざまな文様も目を楽ませさせてくれる。「唐草」文様や「扇面」文様など、同じテーマでも多彩なバリエーションを見せる文様を、さまざまな分野の工芸品から集めて19点を展示した。



扇面散文鏡(重要美術品) 鎌倉時代▲

新春名品展

会期：平成24年1月5日(木)―2月5日(日)

一足早く春を感じて咲く梅を題材とした《林和靖図》や、自然の生命力を感じさせる《黒楽茶碗 銘「さわらび」》など、春のきざしを感じさせる作品を中心に19点を展示。

なぜこれが茶道具なの？

会期：平成24年2月7日(火)―4月1日(日)

茶の湯に用いられた古美術には、当初から茶道具として制作されたものと、もとは他の目的で制作されながら茶道具に転用されたものがある。本展は後者の古美術品に焦点をあて、古来、床飾りに珍重された禅僧の墨蹟をはじめ、「見立て」により花入や水指などに用いられた古代の青銅器など18件により、茶道具の奥深さに着目した。



牛形匱 殷時代後期 前13-11世紀▲

東光院仏教美術室

薬王密寺東光院(博多区吉塚)より寄贈された重要文化財25点を含む仏像を常時展示。薬師如来立像、十二神将立像(平安時代後期・南北朝時代)など。

東光院の仏画―涅槃図ほか(コーナー展示)

会期：平成24年2月7日(火)―4月1日(日)

ねはんえ
涅槃会の時節にちなみ、仏涅槃図をはじめとする東光院伝来の仏画をコーナー展示。

観覧料：一般200円(150円)、高大生150円(100円)、小中生以下無料。ただし、福岡市発行のシルバー手帳および北九州市発行の年長者施設利用証・療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳提示者は無料。また、65歳以上の鹿児島市民および熊本市民は証明書提示で無料。()内は20名以上の団体料金。

観覧者数：p.60を参照。

関連記事：p.24を参照。

朝鮮王朝時代の絵画

会期：平成24年1月5日(木)―2月19日(日)

会場：古美術企画展示室



▲出品作品 阿弥陀・観音・地藏図 福岡市博物館蔵



▲シンポジウムの様子

内容

本展は、当初、「釜山の美術―朝鮮王朝時代の絵画」展として、近年の日本での韓国文化、とくに芸術への関心を踏まえて、福岡市とその姉妹都市である釜山広域市の関係をさらに深める意味を込めて、釜山広域市における伝統的絵画に焦点を当て、多くは日本において初めての公開となる作品を展示する予定であった。しかしながら、作品輸送の手続きが期限に間に合わないなどにより、韓国作品の展示をやめ「朝鮮王朝時代の絵画」展として、福岡市美術館と福岡市博物館の所蔵品による韓国作品の展覧会として、改めて開催した。

出品点数 18点

関連事業

▶国際シンポジウム「韓国美術研究のいま」

日時：平成24年2月5日(日) 午後1時～4時

会場：教養講座室

基調講演「朝鮮時代仏教絵画研究の現状と課題」

時間：午後1時～2時

講師：朴銀卿(パク・ウンギョン)氏(東亜大学校教授)

討議 テーマ「韓国美術研究―日本へ、日本から」

時間：午後2時15分～4時

パネラー：井手誠之輔氏(九州大学大学院教授)

雀応天(チェ・ウンチョン)氏(東亜大学校教授)

朴銀卿(パク・ウンギョン)氏(東亜大学校教授)

金正善(キム・ジョンソン)氏(東亜大学校教授)

司会：渡邊雄二(福岡市美術館学芸課長)

聴講者数：45人

主催等

主催：福岡市美術館

観覧料

常設展示観覧料(P.16参照)

開催日数 39日

観覧者数

28,774人(期間中の常設展示観覧者数)